

## 第4回 Hands-on Training Workshop (Hands-on seminar in 8th HALS Group Meeting)

2017年10月28日開催

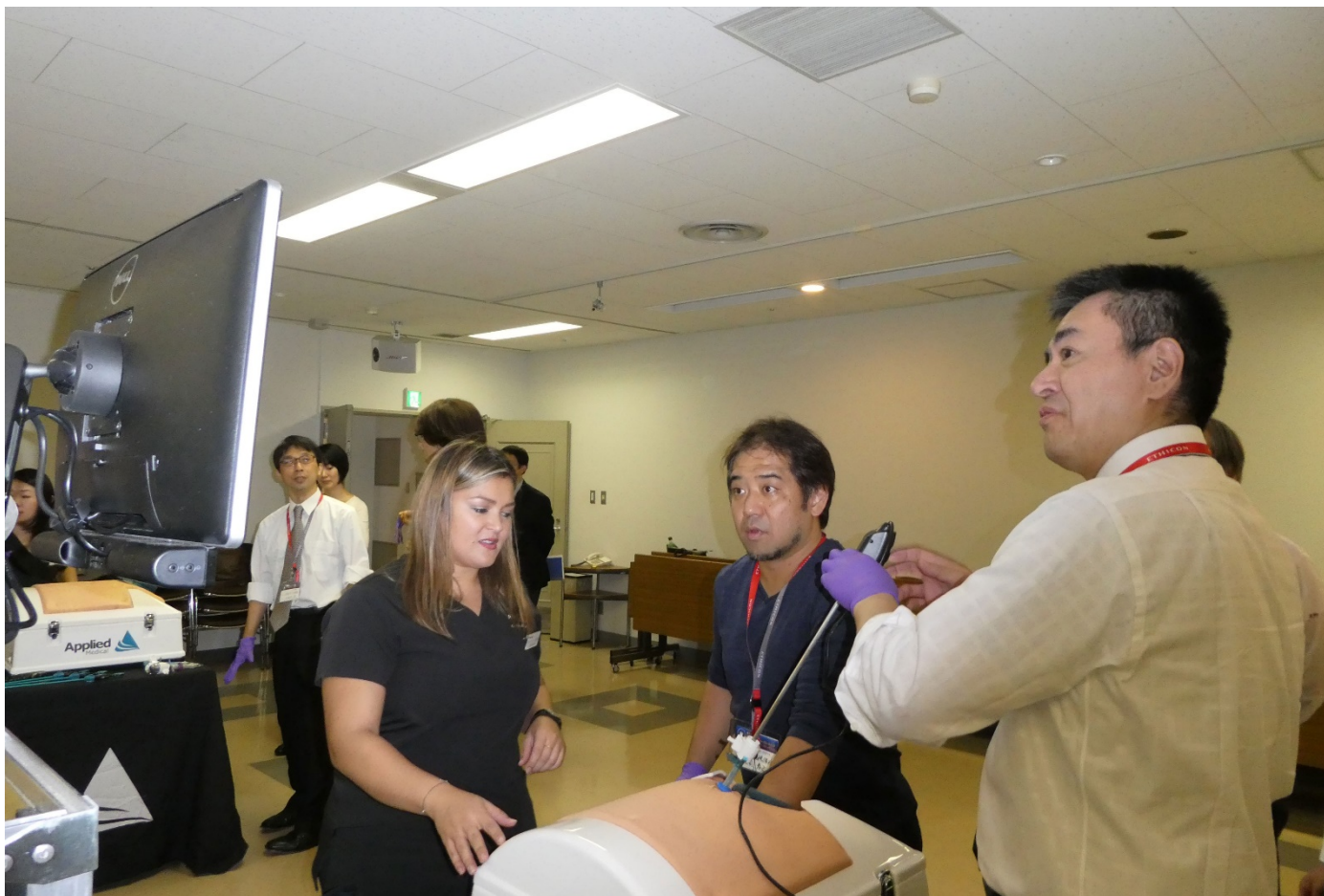
第8回 HALS グループミーティングでは、ドライボックスと大腸モデルを用いてハンズオンセミナーを開催しました。デバイスはそのどの部分に留置するのか？どの様に左手を使うのか？助手の役割は？実際 HALS を行うことで生じる多くの疑問を解決すべく、また未体験の方には HALS 手術手技をご体験いただけるよう、第一線で実際に活躍されている先生方に講師としてご指導いただきました。



## ■コース内容

日時	コース No.	内 容	定員	講 師
10月28日(土) 13:30-14:00	A-1	HALS による結腸切除/肝彎・脾湾曲の脱転法	1	板橋道朗先生 (東京女子医科大学消化器外科)
10月28日(土) 14:00-14:30	A-2	HALS による低位前方切除	1	板橋道朗先生 (東京女子医科大学消化器外科)
10月28日(土) 13:30-14:00	B-1	HALS による左半結腸切除	1	森本幸治先生・西尾梨沙先生 (東京山手メディカルセンター大腸肛門病センター)
10月28日(土) 14:00-14:30	B-2	HALS による大腸全摘	1	森本幸治先生・西尾梨沙先生 (東京山手メディカルセンター大腸肛門病センター)

## ■ハンズオンセミナーを終えて（終了報告）



研究会開催の前に、会場まで着てきた背広の上着を脱ぎ、ワイシャツの左手の袖をまくり上げ、受講生と共に HALS ハンズオンセミナーを楽しませていただきました。山手メディカルセンターの会場でシミュレーター 2 台を用いてハンズオンセミナー、私の担当は「脾彎曲部・肝彎曲部の脱転法」でした。受講生の経験レベルは様々でしたが、受講生を皆で取り巻きながら左手と鉗子の位置、実際の左手の角度や手首のひねりなど、実践しながら行うことができました。



手術手技の共有や討議には、やはりシミュレーターを用いて実践しながらの討論が適していることが実感できました。そして、受講生のとっても熱心な姿に心が熱くなるのを隠せませんでした。おかげさまで、私自身もとても楽しい時間を過ごさせていただきましたが、この取り組みは、講演会場で見るとは不可能なお互いの手技の確認に適していると感じております。



参加いただきました皆様、ありがとうございました。最後にシミュレーターなど、機材一式を提供していただきましたアプライドメディカル社の関係の皆さまに感謝申し上げます。  
ありがとうございました。

東京女子医科大学 消化器・一般外科 板橋道朗



この度、10月28日に開催されました、第8回 HALS グループミーティングに先立ち、同日行われました HALS ハンズオンセミナーの講師を務めさせていただきました。私は大腸の分野を担当させていただきました。アプライドメディカルにより作製いただいた dry box 内の臓器模型を用い、受講された皆様には、実際に HALS による大腸全摘術を行っていただきました。



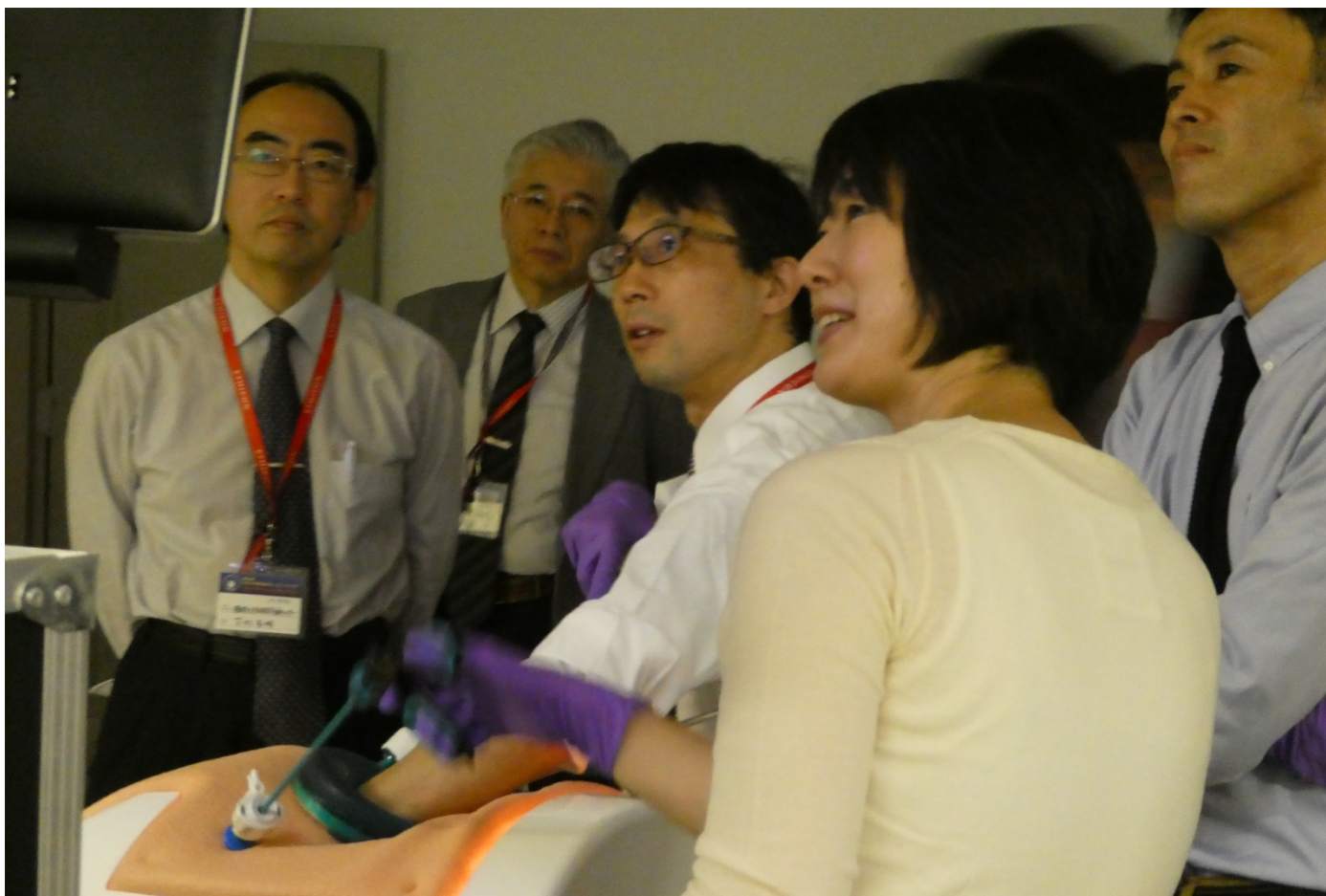
実際の臓器と同じようにはいきませんが、手術における実際の視野展開を、HALS でどのように行うか実感していただくには、非常によい機会であったと思います。セミナーでは医師のみならず、コメディカルの方々にも、同様の手技を経験していただきましたが、みなさん比較的短い時間で慣れて、うまく視野展開されておられることには驚かされました。そして、これがまさに手を使う HALS という手術の、優れたところであることを再認識させられた次第です。



今回が初めての開催ですが、今後もたくさんの方に経験していただきたいセミナーです。

東京山手メディカルセンター 大腸肛門病センター 森本幸治





腸管モデルは実際の患者さんの臓器や解剖とはやはりだいぶ異なっており、当初指定されていた術式を参加者の方に体験していただくのは難しい部分も多かったですが、まずは HALS を体験する、という最大の目標は達成できたのではないかと考えております。



初めてのハンズオンセミナーでしたが、アットホームな雰囲気楽しく参加することができました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

東京山手メディカルセンター 大腸肛門病センター 西尾梨沙